

## 第17回 通 常 総 会 記 録

日 時 昭和61年 6 月 7 日 午後 1 時 30 分

場 所 富 山 県 農 協 会 館

昭和60年度の事業の終了にあたり、ここに事業の概要並びに決算関係諸表についてご報告申し上げます。本研究会は、昭和44年に創立されて以来17年を経過し、その間会員の絶え間ないご努力により富山県農村の疾病、並びに健康管理に関する問題の調査研究に邁進致してまいりました。この間特に、県並びに農協各連からは、絶大なご援助をいただき厚く感謝致します。

ところで、昭和60年度は農薬のパラコートがジュースに混入されるという事件が大きな社会問題となりました。本来、農業生産を高め、豊かな生活を築くために開発された農薬が、人間の命を奪う目的に使用されている現実はまことに残念であります。本研究会では、今年度において、これら農薬中毒の富山県内の実態を知るべく、県内の医療機関を対象に農薬中毒事例の収集をおこない、その問題の解明にあたってまいりました。また、農家自身の農薬の取扱いや保管状態、さらに農薬に対する意識調査もおこなってまいりましたが、大変憂うべき現実であり、関係機関が挙げて農薬の安全使用を徹底させる活動が極めて重要であることが示唆されました。

昭和45年以来続けております農業機械災害事故調査によりますと、近年事故件数は減少の傾向にあります。しかしながら、不幸なことに死亡事故は無くならず、昭和60年では過去最高の7名もの死亡者も数えており、今後さらに農薬問題を含め農作業安全に努力する必要があります。

以上述べた農作業とかかわる健康問題のみならず、農村の生活や長い間の習慣からくる健康障害や健康管理に関する調査研究も精力的にすすめてまいりました。

ところで、健康とは単に肉体的に健康であるのみならず、精神的にも社会的にも健康であることとされています。特に農村は、他より高齢化が進んでおり、これらの人々の健康は、地域社会との繋がりの深さによって始めて保証される面があります。昭和60年度においても高齢者の問題についての調査研究を重ねてまいりましたが、今後とも農村社会学的立場からの究明を含め、豊かで健康な村づくりに努力致してまいりたいと思っておりますので、より一層のご協力をお願い致します。

以上、昭和60年度の事業報告を終わります。

### 総会議事の概要

会 員 総 数	250名	うち出席者83名	委任状138名
会 長 挨 拶	豊 田 文 一		
議 長 選 出	厚生連本所部長 安 宅 清 一		
議事録署名者	富山市 秋 元 敏 夫 滑川市 石 倉 俊 宜		
書 記	高 木 茂 橋 本 賢 治		
議 事	第 1 号議案 昭和60年度事業報告書、財産目録、収支決算報告承認について		
	第 2 号議案 昭和61年度事業計画及び収支予算案承認について		
	第 3 号議案 役員の一部改選について		
	第 4 号議案 顧問の一部変更承認について		

特 別 講 演 富山医科薬科大学公衆衛生学教室教授 加 須 屋 実 氏  
演 題 「富山県の成人病の特徴と健康管理」

## 第4回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会記録

日時：昭和62年2月7日

場所：厚生連高岡病院講堂

第4回の研究発表集会は、昭和62年2月7日、厚生連高岡病院にて、発表演題9題、参加約100名でおこなわれ、活発な討論がおこなわれました。

なお、発表演題名は下記の通りです。

### <プログラム>

1. 会長挨拶 (13:35~13:45)

2. 会員発表 (13:45~ 発表時間10分 討論5分)

(座長 厚生連高岡病院副院長 龍沢俊彦 13:45~14:15)

1. 免疫学的便潜血検出法の検討

厚生連高岡病院検査科

○吉田弘美

金森志津子

尾畑敏子

柴田立子

永井忠之

寺部 聡

2. 人間ドックにおける胃癌発見状況及び発見胃癌の実態

厚生連滑川病院

○小川忠邦

佐々木 正

厚生連総合検診センター

スタッフ一同

(座長 厚生連滑川病院院長 小川忠邦 14:15~15:00)

3. 一老人病院における給食実態調査 (第二報)

医療法人新川病院

○飛世栄子

中村澄子

長勢由李子

高木富子

永崎みのる子

越山健二

平井美枝

4. 巨大児分娩の背景

富山県立中央病院

○岡崎雅美

細岡里美

瀬川真由美

村上律子

柴田雅子

舘野政也

5. 農薬に対する意識の現状 一農薬中毒の実態との関連で一

富山県農村医学研究会

○大浦栄次

寺中正昭

豊田文一

(座長 前国立富山病院院長 長谷田祐作 15:00~16:00)

6. アルコール症に対する内観の有効性について考える

富山市民病院精神科

○道野富夫

山野俊一

草野 亮

7. 出稼ぎ労働者の飲酒様態 (第二報)

富山医科薬科大学	○安田政実	村瀬悟	二谷武
	古川智明	石井佐宏	成瀬優知
富山保健所	柏樹悦郎	中川秀幸	
富山市民病院精神科	草野亮		

8. アルコール常用者の健康状態について (続報) —非飲酒者との対比から—

厚生連総合検診センター	○小川忠邦	中谷恒夫	松井規子
	永田隆恵	中井陽子	横山正洋
	荻野孝次		

9. 健康に及ぼす喫煙の影響 —成人病検診の結果から—

厚生連高岡病院健康管理科	○渋谷直美	森内尋子	宮田吉高
	村端彰	長谷川登	河合昂三

〈特別報告〉 (16:00~16:45)

中国の農村とところどころ

富山県農村医学研究会会長 豊田文一

3. 閉会 (16:45)

# 役 員 名 簿

昭和61年6月7日現在

理 事			
氏	名	役	職
豊田	文一	金沢大学名誉教授	
門廣	繁幸	県医務課長	
長瀬	二朗	県普及指導課長	
荒尾	行雄	県公衆衛生課長	
中川	秀幸	富山保健所長	
中田	慶子	高岡保健所長	
渡辺	正男	富山女子短期大学教授	
中藤	康俊	富山大学教授	
越山	健二	全国国保医学会顧問	
石田	礼二	富山市民病院長	
長谷	田祐	前国立療養所富山病院長	
寺中	正昭	城端厚生病院長	
広瀬	龍夫	県医師会理事	
西北	能正	西能病院長	
北川	鉄人	北川内科クリニック院長	
広島	清一	厚生連高岡病院長	
小川	忠一	厚生連滑川病院長	
館野	政也	県立中央病院医療局長	
鈴木	邦雄	高岡市民病院副院長	
龍沢	俊彦	厚生連高岡病院副院長	
八大	木信	県農協中央会専務理事	
大森	敏雄	県農協青年組織協議会委員長	
竹部	喜代	県農協婦人組織協議会長	
跡治	順子	県経済連生活総合課長	
長田	弘子	県農協生活指導員協議会長	
監 事			
本村	多重	富山県高志リハビリテーション病院事務局長	
	本武	高岡市農林部長	
顧 問			
中堀	沖健	富山県知事	
村井	武一	// 市長会長	
本多	幸男	// 町村会長	
窪木	外幸	// 医師会長	
藤井	井孝	// 厚生部長	
松井	信勝	// 農業水産部長	
山口	光弘	// 農協中央会長	
滝田	金蔵	// 厚生連会長	
大角	秀尚	// 信連会長	
河合	勇三	// 経済連会長	
		// 共済連会長	

# 昭和60年度収支決算書

昭和60年4月1日～昭和61年3月31日

## 収入の部

項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
会 費 収 入	200,000	165,000	△ 35,000	
会 費	200,000	165,000	△ 35,000	165人×1,000
助 成 金	1,800,000	1,800,000	0	
助 成 金	1,800,000	1,800,000	0	県費助成金
特 別 負 担 金	3,480,000	3,480,000	0	
特 別 負 担 金	3,480,000	3,480,000	0	農協各連助成
受 託 料	0	100,000	100,000	
受 託 料	0	100,000	100,000	県より「農業機械事故調査」受託料
雑 収 入	35,977	39,736	3,759	
雑 収 入	35,977	39,736	3,759	預金利子等
前 期 繰 越 金	389,568	389,568	0	
収 入 計	5,905,545	5,974,304	68,759	

## 支出の部

項 目	予 算	決 算	決 算	摘 要
会 議 費	800,000	762,100	△ 37,900	
総 会 費	120,000	85,740	△ 34,260	会場費、資料代等
役 員 会 費	500,000	502,860	2,860	年5回開催
専 門 委 員 会 費	130,000	103,560	△ 26,440	
編 集 委 員 会 費	50,000	69,940	19,940	
事 業 費	4,550,000	4,416,662	△ 133,338	
研 究 調 査 費	2,000,000	1,991,906	△ 8,094	農薬中毒、農業災害等調査費等
研 究 集 会 費	450,000	443,600	△ 6,400	第3回発表集会開催等
会 誌 発 行 費	1,600,000	1,627,500	27,500	会誌第17巻発行費
通 信 費	150,000	148,050	△ 1,950	
消 耗 品 費	250,000	170,606	△ 79,394	
備 品 ・ 什 器	100,000	35,000	△ 65,000	
旅 費 交 通 費	250,000	137,056	△ 112,944	
旅 費 交 通 費	250,000	137,056	△ 112,944	
事 務 費	240,000	421,102	181,102	
事 務 費	240,000	421,102	181,102	研究調査に伴う事務費等
雑 費	20,000	19,550	△ 450	
雑 費	20,000	19,550	△ 450	
予 備 費	45,545	0	△ 45,545	
予 備 費	45,545	0	△ 45,545	
支 出 計	5,905,545	5,756,470	△ 149,075	
次 期 繰 越 金		217,834	217,834	

## 昭和61年度事業計画書

昭和61年4月1日～昭和62年3月31日

### ① 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

### ② 事業内容

1. 農村の職業性疾患の調査研究
  - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
  - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
  - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
  - ・農薬中毒の実態調査
  - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
  - ・農業従事者の健康管理の調査研究
  - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
  - ・高齢者に関する研究
  - ・社会変動による農業従事者の健康に及ぼす影響についての調査研究
  - ・都市近郊農村における社会医学的研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
  - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 環境汚染と農村における健康障害についての調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

## 投 稿 規 定

- 募 集 原 稿** 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。
- 投 稿 の 資 格** 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。
- 原 稿 の 送 り 先** 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪2番21号 富山県厚生連内）  
投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

### 論文原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま(Pasteur, Prostigmin等)とし、動植物名は日本名の次に学名(ローマ字 Moccus rlesus, 山椒藻 Salvinabatah等)を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートルm, センチメートルcm, グラムg, キログラムkg等。
3. コンマ(,)ピリオド(.)コロン(:)ゴジックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。  
(図表は、特殊なものを除いては、出来あがり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。)図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記(朱記)して下さい。

**無 料 掲 載** 原稿用紙20枚（刷上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

**有 料 掲 載** 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がりが15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

**文 献** 1. 雑誌の場合著者名、標題名、雑誌名(雑誌指定の略号)、巻数(号数)、頁一頁、発行年月(昭52.5のごとく)  
2. 単行本の場合 著者名: 標題名、発行所、発行地、発行年月(必要ならば引用の箇所の頁を最後に)

**印 刷** 別刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

## 編 集 後 記

富山県農村医学研究会誌は第18巻から第1号、第2号と年2回の発刊となり、ますます内容も多彩となってきた。農業の業態は時代の変化に伴って変貌し、それにつれて農村、農家、農民に及ぼす影響も変りつつある。したがって本誌の内容も多岐にわたり、その果す役割も貴重で重要性を増してきたように思われる。厚生省の委託研究等基本的な研究業績だけでなく、生産にたずさわる直接現場からの研究ノートや会員だよりなど、肌につれた記録も今回は多く、今後も幅広い会員からの投稿を期待したいものである。

K. K.

編 集 委 員 越山 健二，長谷田祐作，北川 鉄人

---

富山県農村医学研究会誌 第18巻第2号 昭和62年3月25日印刷・昭和62年3月31日発行  
富山市新総曲輪2番21号・富山県厚生連内 電話 富山 (0764) 45-2307  
編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 岩 井 久 作  
印刷所 株式会社チューエツ 富山市上赤江町 電話 (0764) 32-4171

---